



統計情報アーカイブスについて

統計課普及情報グループ

統計課では、県内の各種統計をとりまとめた「統計年鑑」を毎年発行していますが、その前身は今から130年以上前の明治初期から始まっています。これらの統計書を体系的に保存し、閲覧も容易になるように、平成24年度にパソコンへ画像データとして取り込む「統計情報アーカイブス作成事業」を行いました。

我が国の近代的な統計は、明治3年に民部省が編纂した「府県物産表」が始まりと言われていています。当時の調査体制等について詳しくはわかりませんが、国の省庁の求めに応じて府県が域内の行政組織を動員し、必要な情報の収集を行っていたようです。

各府県ではそれらの調査から「県治一覧」「県治一斑」「県勢一斑」などと名付けた独自の統計書を作成しました。統計課で保管している最古の統計書は明治12年10月発行の「県治一覧表」で、本県の地勢、沿革、面積、物産、人口、教育等が記載されており、現在の統計年鑑にも通じた内容となっています。本県が現在の県域に統合されたのは明治8年ですので、それから間もない時期での統計編纂作業は大変だったものと推測されます。

この明治12年「県治一覧表」の中身を少し見てみますと、本県の人口は880,998人で現在の3分の1にも満たない数です。職籍別として、571,206人中、「農」が517,825人と約9割を占め、「工」が8,344人、「商」が25,739人、「兵隊」1,208人などとなっています。

農産物についての記載が大半のページを占めており、工場の主な生産品としては瓦や鋳物、指物、建具、足袋股引、高機織などわずかです。近代的な工業の発展は日露戦争以後まで待たなければならず、本県の日立に鉱山機械の修理工場（日立製作所の前身）が出来たのは明治41年になります。

学校は、師範学校1校（水戸）分校1校（土浦）と、7つの中学区（明治5年「学制」）に公立校が672校、私立校が10校あり、教員（男）1,164人、同（女）19人、就学（男）39,502人、同（女）10,103人、不就学（男）65,414人同（女）58,361人となっています。内訳の記載がないのでよくわかりませんが、1校あたりに逆算すると教員2名と生徒が70名程度となり小規模な学校が多いようです。県立歴史館内に保存されている水海道小学校本館は明治14年の竣工ですが、当時としては豪華な校舎だったものと思われます。

明治6年に始まる地租改正は、本県でも真壁郡や那珂郡で農民一揆が発生するなど大変な混乱をもたらしました。国税は1,220,035円（地租改正作業中のため仮納金と注記）のうち田畑等にかかる税金が90%近くを占めています。県税は68,079円で、各種卸・小売や興業、漁、市場などの取引にかけられていたようです。

鉄道（水戸線）の開通が明治22年、水戸に電灯がとるのが明治40年ですから、明治12年の当時は、役所や学校など大きく制度が変化しつつも、江戸時代から続く農業中心の社会の様子が伺えます。

明治の後半になると、統計も全国的に統一されるようになり、大正9年からは国勢調査も始められましたので、都道府県の比較や分析も容易になってきます。

統計は、様々な情報の宝庫です。最新の統計だけでなく、古い統計資料についてもその活用が期待されます。統計課では、今後これらの資料の一部をホームページから閲覧できるよう準備中です。

